

不登校の対応についての Q&A

- Q1 子どもが不登校になってしまった場合、最初にすべきことは何ですか。
- A1 きっかけとなっていることはないか、何か一つでも言葉で表現できることはないか、まずはお子さんにじっくり話を聞いてみてください。本人が話しているときに、最後まで口を挟まずに聞くことが大切です。「聞いてもらえた」と思えるだけで、少し元気が回復することもあるでしょう。
- Q2 不登校になって家にひきこもるには意味があると聞いたことがあります、どういうことですか。
- A2 集団生活を送るうえでは、集団の求める姿にある程度合わせて過ごすことは大切なことです。しかし、集団に合わせ過ぎてしまうと「自分」を見失ってしまい、苦しくなってしまいます。心が疲弊して、頑張れなくなってしまうこともあるでしょう。このような場合、一度集団から離れて「自分」を立て直すために、しばらく家にひきこもることに意味があります。
- 無理に集団に戻ろうとするのではなく、じっくり一人で好きなことをしたり、自分のペースで生活をしたりすることが、「自分」らしきの土台を作る意味で、非常に大切です。
- Q3 そうは言っても、社会的ひきこもりになってしまうのではないかと心配です。学校を休んでいるときに、子どもにどのように接したらいいですか。
- A3 集団に戻るには、お子さんの心の準備が整うことが必要です。心の準備を進めていくために、まずはお子さんが「どうしたいのか」、じっくり耳を傾けてください。本人に聞いても「わからない」としか表現できないかもしれません。いくつか選択肢を示して本人に考えさせるのも一つです。「どうしたいのか」が育ってくるのに時間がかかるとはありますが、「どうしたいのか」を見つけていくことが非常に大切です。はじめは「どうしたいのか」ではなく「どうしたくないのか」という形で言うこともあるでしょう。そういう意味では、「学校へ行きたくない」というのも、「自分」が育ってきた一つの現れだとも考えられます。焦らずにじっくりとお子さんに関わっていくことが大切です。

Q4 他にも不登校の原因として考えられることはありますか。

A4 友人関係がうまくいかずに困っていることがあるかもしれません。
また、学習へのつまずきが登校渋りという形で現れることもあります。
友人関係について本人が困っていることはないか、学習の面で困っていることはないかなどについても、担任や他の学校内の先生とよく話し合ってみてください。

Q5 子ども教育相談センターへ相談に行くと、どのような支援が受けられますか。

A5 お子さんの困っていることは千差万別で、決まった答えはありません。すぐに学校に復帰することができるようなものもありません。子ども教育相談センターでは、お子さんが生まれてから今までの成育状況、発達の状況、学習状況、対人関係など、さまざまな視点を持ちながら、お子さんとの関わりを保護者の方と一緒に考えていきます。

Q6 小・中学校のスクールカウンセラーへ相談に行くと、どのような支援が受けられますか。

A6 スクールカウンセラーは学校の中の相談できる心理の専門家です。お子さんが登校している場合は、時間がある時にクラスの様子を見に行ってもらったり、保護者の方の希望があれば担任や他の学校内の先生と連携を取ってもらったりすることができます。また、登校をしていなくても、スクールカウンセラーの来校日に相談室での相談や電話相談をすることができます。

Q7 適応指導教室「くすのき」に通いたいと思ったら、どのようにしたらいいですか。

A7 適応指導教室「くすのき」に通室を希望する場合は、スクールカウンセラーではなく、子ども教育相談センターにご相談いただく必要があります。詳しくはホームページで確認していただくか、電話（子ども教育相談センター 0463-36-6013）にてお問い合わせください。